

「御所ダム」、「胆沢ダム」今期渇水におけるダムの効果

～ 管理開始以降最も厳しい渇水の中、ダムを最大限に活用しました ～

今期は6月から7月にかけて、少雨の影響により管内5つのダムのうち特に「御所ダム」及び「胆沢ダム」において、著しい貯水率の低下が見られ、かんがい等への補給に支障が生じるおそれがありましたが、ダムからの補給により、かんがい期終了までダムからの利水補給を最大限継続し、効果を発揮しました。

「御所ダム」では7月のダム流域平均雨量が「管理開始(S57)以降最小」を記録し、7月31日に貯水位が最低水位を下回ったことから、関係利水者からの合意のもと「異常渇水補給」の実施により切れ目の無い利水補給を行いました。

「胆沢ダム」では、「近年最大の渇水年であった平成6年よりも更に少ない降雨」となりましたが、関係利水者と協力・連携しながらダム運用を行い利水補給を継続しました。胆沢ダム建設前の石淵ダムであった場合、今期の流況であれば「6月25日時点で補給不能」に陥っていたものと推測されます。

この度、今期渇水における「御所ダム」及び「胆沢ダム」の取り組みをまとめましたのでお知らせいたします。

【北上川ダム統合管理事務所における渇水対応の経過】

- 7月24日(木) 渇水対策支部(注意体制)設置
- 7月25日(金) 胆沢ダム利水協議会開催
- 7月28日(月) 雫石川御所ダム渇水対策協議会(幹事会)、湯田ダム渇水情報連絡会議開催
- 7月29日(火) 雫石川御所ダム渇水対策協議会開催
- 7月30日(水) 渇水対策支部(警戒体制)移行
- 7月31日(木) 御所ダムから渇水時における『異常渇水補給』を実施(8月5日(火)まで)
- 8月22日(金) 胆沢ダム利水協議会開催
- 9月11日(木) 渇水対策支部(警戒体制)解除

○北上川上流五大ダムにおける渇水対応状況について

URL: <https://www.thr.mlit.go.jp/kitakato/07info/kassuitaio/index.html>

バナー:



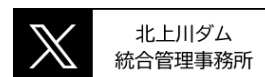
北上川ダム統合管理事務所トップページのバナーをクリック

○北上川上流五大ダムリアルタイム情報

URL: <http://www2.thr.mlit.go.jp/kitakato/02real/index.html>

○北上川ダム統合管理事務所 X

URL: https://x.com/mlit_kitakato
北上川ダム統合管理事務所のXにも投稿しています



発表記者会: 岩手県政記者クラブ、北上記者クラブ、花巻記者クラブ、奥州市政記者クラブ

＜問い合わせ先＞

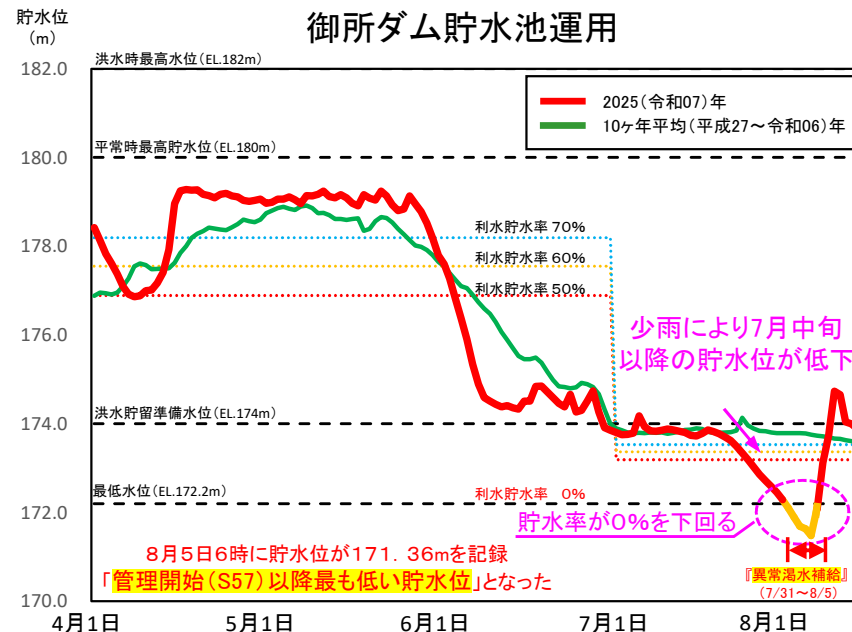
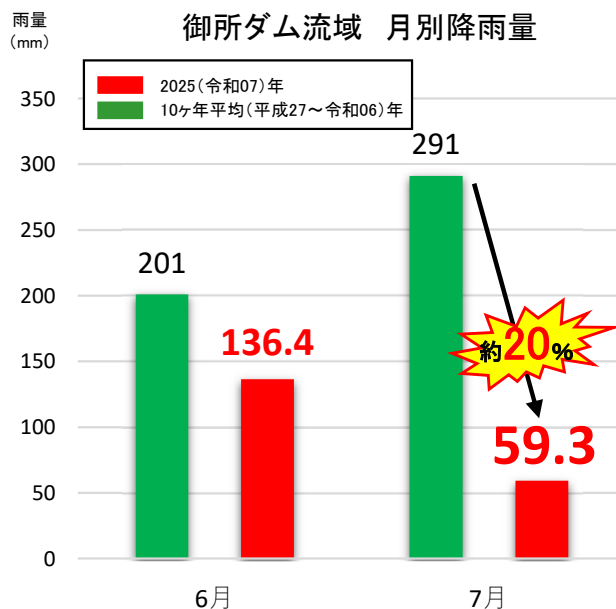
国土交通省 北上川ダム統合管理事務所(代表019-643-7831)

副 所 長 菊池 真樹
管理第一課長 加藤 一典

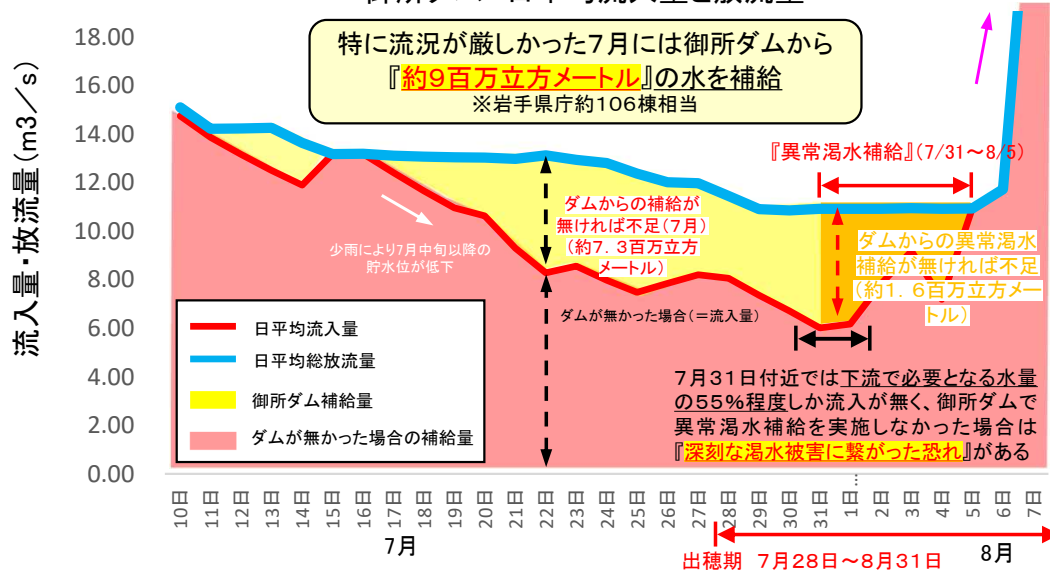
令和7年渇水における御所ダムの効果

- 御所ダムでは、7月のダム流域平均雨量が『**管理開始(S57)以降最少となる59.3mm**』を記録し、近年で経験したことが無いほどの少雨となった。
- まとまった降雨が無くダム貯水位が厳しい局面を迎えるなか**令和7年7月31日に最低水位を下回った**が、**最も水を必要とする出穂期に切れ目の無い補給を継続**するため、関係利水者からの合意のもと、最低水位以下の貯留水を使用する緊急的な手段である『**異常渇水補給**』を実施した。
- 特に流況が厳しかった7月において合計『**約9百万立方メートル(岩手県庁106棟相当)**』の水を補給し、水不足に不安を抱える地域の期待に応えた。

御所ダムと下流かんがい区域の概要



御所ダム 日平均流入量と放流量



【地域の声】

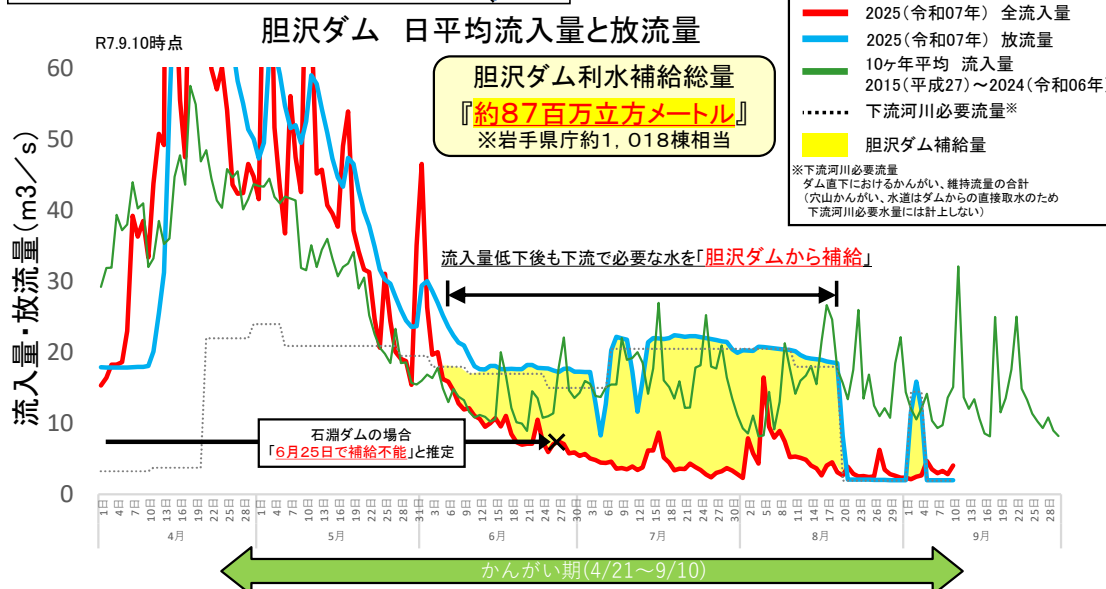
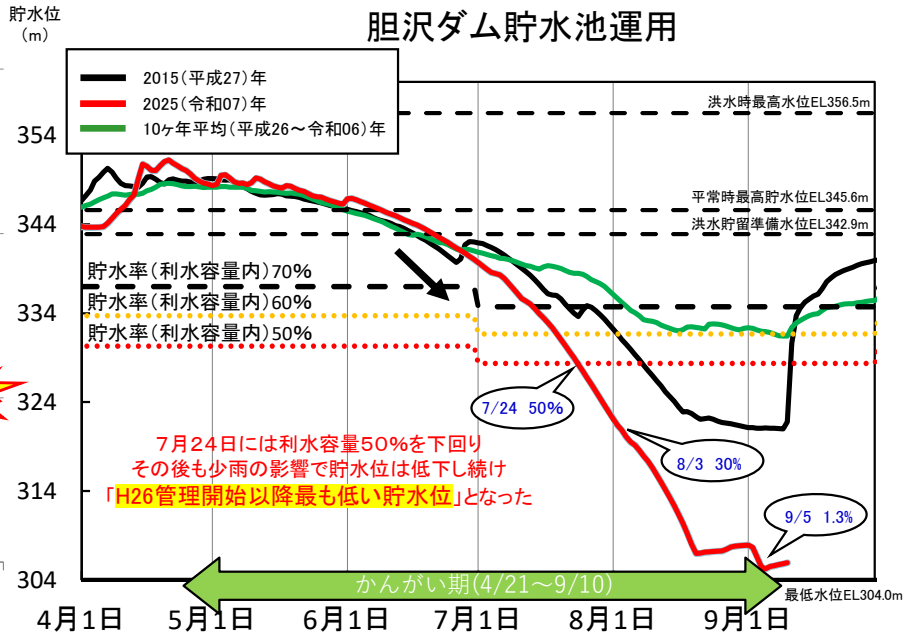
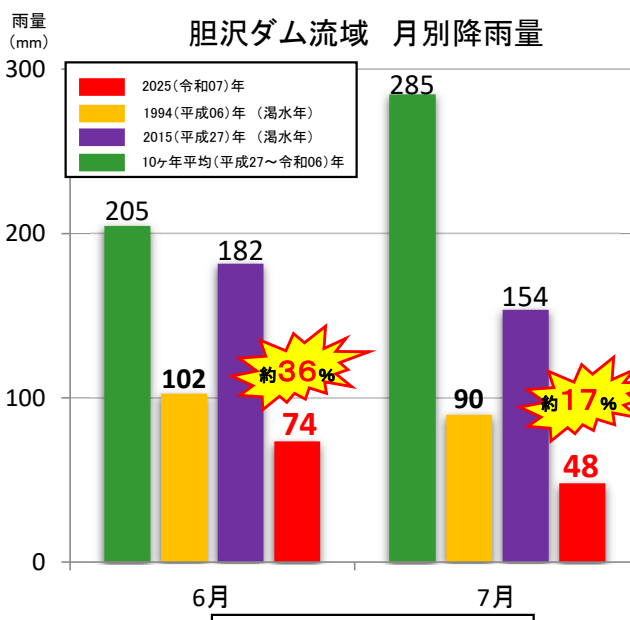
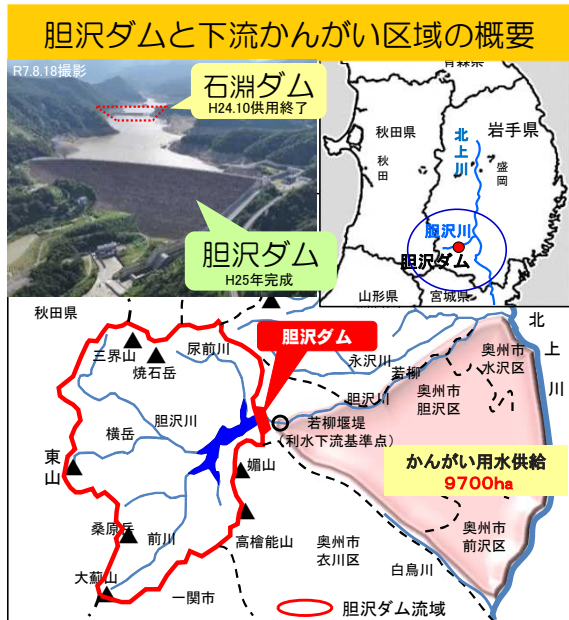
- かんがい
 - ・御所ダムからの異常渇水補給が実施され危機的な状況を免れる事が出来たことに感謝している。(鹿妻穴堰土地改良区理事長談)
 - ・御所ダムによる異常渇水補給がない状況で輪番取水※をした場合、水稻の枯死や野菜・果樹の生育不良など甚大な被害を及ぼしたと思われる。



※補給地域を2グループに分けて3日間ずつ順番に通水した。

令和7年渇水における胆沢ダムの効果

- 胆沢ダムでは、令和7年6月及び7月のダム流域平均雨量が**74mm(6月)**、**48mm(7月)**にとどまり、胆沢ダム完成後に渇水傾向となった平成27年6月及び7月の降水量を大きく下回る少雨となった(6月で約36%、7月で約17%の降水量しかなかった)。
 - ⇒ 平年よりも少ない降水量となったほか、**近年最大の渇水年である平成6年(胆沢ダム完成前(石淵ダム時代))よりも少ない記録的な少雨となった。**
- 胆沢ダム完成後の渇水年である平成27年をはるかに上回るスピードで貯水位が低下し、ダムの貯水位が厳しい局面を迎えるなか、合計『**約87百万立方メートル(岩手県庁約1,018棟相当)**』の水を補給した。



【地域の声】

- かんがい**
昔(石淵ダム時代)は、6月20日頃を過ぎるとダムに水が無くなり、番水を繰り返して来たが、**今年は渇水であるとはいえ8月19日まで減水する事無く給水する事が出来たので稲作への影響は少ないと考えている。**(胆沢平野土地改良区理事長談)
- 上水道**
貯水率が低下していく中で、**上水道の容量を確保し補給を継続して頂いている事に感謝している。**(奥州金ヶ崎行政事務組合談)

平成6年 干上がった石淵ダム

水田のひび割れ

平成6年:近年の最大渇水(胆沢ダム完成前)

胆沢ダムの貯水状況

令和7年9月8日撮影(貯水率:約2.0%)

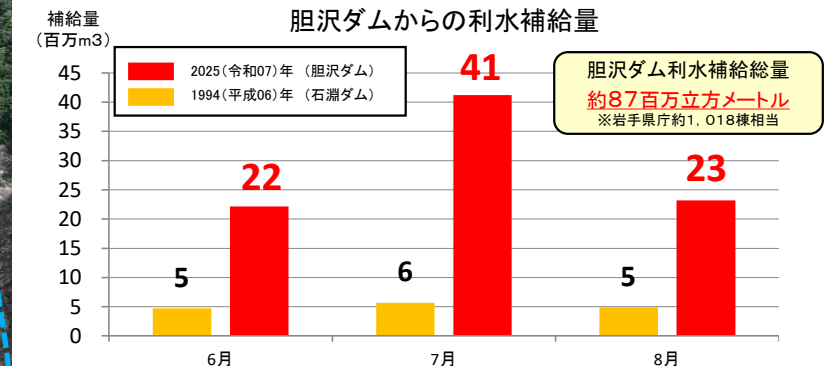
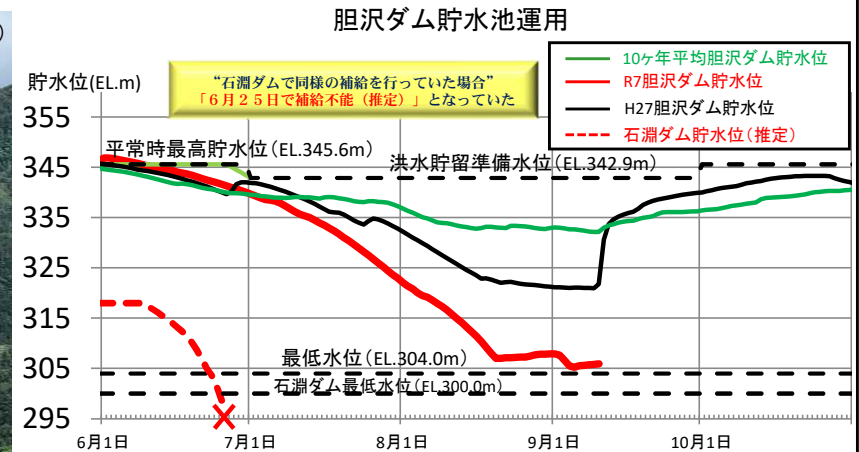
令和7年渇水における胆沢ダムの効果

- ▶ まとまった雨が降らずダム貯留水も厳しい局面を迎えるなか、関係者と密接な連携※1を取りながらダム運用を行った結果、稲の生育過程で最も水が必要となる出穂期においても、下流域へかんがい用水を補給した。
(6~8月におけるダムからの補給は『約87百万立方メートル(岩手県庁約1,018棟相当)』)。
- ▶ 胆沢ダム完成前の石淵ダムであった場合、今年は6月25日時点で補給不能になっていたものと推測される。

※1 利水協議会開催後は関係機関に毎日、ダムの状況と今後の見通しなどを情報提供。「胆沢ダム利水協議会」を開催し関係者に水不足に関する危機感を共有

【利水補給の取組み】

まとまった雨が無くダムの貯留水が厳しいなか、胆沢ダムから補給を継続し、かんがい期に必要な水を下流へ補給。



近年最大の渇水年である平成6年よりも降雨が少なかったが胆沢ダムが完成したことにより補給量としては約6倍に増加